

## 令和5年度 第1回小松島市総合教育会議 議事録

1.日 時 令和6年1月23日(火) 11時から

2.場 所 小松島市教育委員会会議室

3.出席者 中山市長

小野寺教育長，福田教育委員，眞井教育委員，渡部教育委員，福良教育委員

4.事務局 西照総務部長，高瀬教育次長，沖学校課長，岩永生涯学習課長，大田学校課主幹

内山商工観光課長，田中企画政策課長，築原秘書広報課長

5.概 要

(1) 開会

(2) 協議報告事項

①複合施設整備計画における屋内プール整備と活用について

(3) 閉会

6.議事の経過 別紙のとおり

築原秘書広報課長

それではただ今から、「令和5年度第1回小松島市総合教育会議」を開催させていただきます。開会にあたりまして、中山市長からご挨拶を申し上げます。

中山市長

皆さんおはようございます。第1回総合教育会議の開催にあたりまして、一言ご挨拶を申し上げたいと思います。小野寺教育長はじめ、教育委員の皆様方には、日頃より、本市の教育の振興、さらには子どもたちの健全育成に尽力を賜っておりますことに深く感謝申し上げます。

本年は、元旦に能登半島を大地震が襲い、2日には羽田空港で想定外の人為的な過失が重なる飛行機事故が発生するなど、波乱の幕開けとなりました。本市でもいつ起こるか分からない災害に備え、いついかなる時も、市民の命を守ることを第一に、防災対策に全力で取り組まなければならないと決意を新たにしたところでございます。

そして、このような中、本市からは能登半島の被災地に向け支援物資の搬入や職員派遣を行い、可能な限りの指示を支援を行ってまいりたいと考えておりますが、毎日、報道される被災地の状況に気持ちが重くなるばかりでございます。

先日、被災地では、再開された学校もあれば、再開の目途が立たず、中学生の子どもたちが、親元を離れ、集団避難を行う様子が伝えられておりました。大変胸が痛むと同時に、子どもたち自身が地元に残るか、集団避難を行うか、それぞれが考え選択し、この困難を乗り越えようとするたくましい子どもたちの姿には、深く感心いたしました。この将来ある子どもたちに、我々大人も、困難に直面してもしっかりと向き合って、強い気持ちで前向きに進んでいく姿を見せなければならないと強く心に刻んだ次第でございます。

さて、市内の学校に目を向けますと今年度は、11小学校のうち3校が創立150周年という節目の年を迎えられました。私も、記念式典に参列させていただきましたが、それぞれの学校が、伝統を重んじ、地域に愛されながら、子どもたちが成長し、長きにわたり、その歴史を重ねてこられたことを実感いたしました。

本市では、今、学校再編を進めておりますが、それぞれの学校の素晴らしい伝統を引き継ぎ、更に発展させることができるよう、今後も、安全安心で、新しい時代に対応した教育環境の整備、実現に向け、鋭意、努力してまいりたいと思っております。

それでは、本日は、本港地区に建設予定の複合施設内に整備する屋内プールの活用について、委員の皆様から忌憚のないご意見をいただくとともに、活発なご議論をお願いいたしまして、挨拶とさせていただきます。

本日はどうぞよろしくお願い申し上げます。

築原秘書広報課長

ありがとうございました。

それでは、本日の議題に入りたいと思います。総合教育会議につきましては、設置要綱に規定されております通り、主催が市長でございますので、以降の会議の進行を市長にお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

中山市長

それではご指名によりまして、着座にて会議を進めさせていただきたいと思っております。

本日の会議は、会議次第の第2にございますように、「複合施設整備計画における屋内プール整備と活用について」を議題といたしまして、意見交換をしてみたいと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。

まずは私の方から少し説明させていただきますと、3年ほど前にですね、小野寺教育長から南小松島小学校のプールが壊れてるという報告を受け、一緒に見に行きました。

そこでいろいろ協議をしたんですけども、修繕するには多額の費用がかかるし、何とか子どもたちが水泳授業できる他の方法はないかと教育委員会で検討していただきまして、民間のプールで水泳授業を実施する方法を導入していただきました。

昨年度から南小松島小学校と北小松島小学校の2校が民間施設の屋内プールを利用して授業を行っている他、坂野小学校では市営プールで、派遣された水泳インストラクターの指導のもと、授業を実施している状況でございます。

その成果などについては後ほど報告させていただきますが、私が保護者の方などから話を聞く限りでは、非常に好評で、自校で実施している学校でも、ぜひ同じように屋内プールで実施してもらえないか、という声も伺っております。

本市では、これから学校再編も控え、新小学校のプールの問題、また現在の学校の老朽化したプール施設の状況などを勘案いたしますと、それぞれの学校にプールを備えるよりも、1カ所に集約する方が良いのではないかと、という考えに至っております。

そこで、まず、実情を把握するため、本市の小中学校のプールや水泳授業の現状と課題について教育委員会学校課から説明をお願いいたします。

沖学校課長

学校課です。よろしくお願いいたします。

それでは、市内小中学校における水泳授業及びプールの現状と課題についてご説明いたします。資料をご覧ください。

まずは、1の水泳授業の現状については、水泳学習は6月下旬から7月の期間に各学年8回程度実施しております。各校のプール施設の管理については学校が行い、授業実施のために、使用していなかった期間は約10ヶ月ぐらいになるんですが、その汚れの清掃や排水設備それから浄化槽の点検整備を行っております。また、水泳授業では、雨天の際は気温や水温、または水質の状態・状況により授業を中止することもございます。

次に2の大きな2番の各小中学校のプール施設は、各小中学校とも新設から40年以上は経っております、大変よく老朽化が進んでおります。修繕しながらも使用できる学校もありますが、南小松島小、北小松島小、坂野小学校、小松島中学校は故障し、修繕するにも高額の費用がかかるため、使用していない状況です。使用できる状態にするには、ほとんどの設備を改修することになり、大規模な改修工事となり、多額の費用がかかると思っております。

大きな3番になりますが、使用できない小学校については、外部施設を利用しております。

先ほどの説明もありましたが、①外部施設は、山城町のOKスイミングクラブの施設を利用しており

ます。利用小学校は、南小松島小学校と北小松島小学校です。1年生から6年生までの全学年が実施しております。OKスイミングクラブの施設は屋内プールですので、利用期間は、5月下旬から10月上旬までの月曜日、OKスイミングクラブの休館日に利用させていただき、各学年4回の実施をしております。また、②のように坂野小学校は、市営プールを利用し、水泳のインストラクターによる水泳授業を行っております。③になりますが、この、外部施設の利用についての制度といたしましては、南小松島小学校、北小松島小学校、坂野小学校ともにOKスイミングから、1回の授業で約10名を超えるスタッフがついていただき、習熟度別少人数の指導をしていただくことで、児童の泳力向上にも繋がっております。また教員の中には、水泳が専門でない方も多く、教職員の負担軽減に繋がっていると同時に、一緒に指導することで教職員の指導力向上にも繋がっております。さらに引率の教職員が巡視等に対応することで児童の安全確保の向上にも繋がっております。

しかし課題としては、バスによる移動に時間を取られ、他の授業時間に影響があることや、コロナ禍においてはバス内での感染の心配もありました。また、今後、他の学校がもし故障ということになれば、利用希望の学校があっても、OKスイミングクラブの休館日、スタッフの休みの日にわざわざ指導に来ていただいていますので、これ以上の受け入れは、スタッフの負担が増えるため、難しいとの回答もありました。

大きな4番になりますが、現在プールが使用できる学校については、夏休みの期間中に開放活動を行っております。開放活動も、教員と保護者が当番制により監視をしているため、負担が大きいということで中止している学校もあります。

現状と課題については以上になります。

#### 中山市長

はい、ありがとうございます。ただいま学校課長から、学校プールの現状と課題を報告いただきました。

お聞きいただいているように、どの学校も施設が老朽化して、小規模の修繕をしながらだましまし使っているのが現状でございます。果たしてこの、もう本当に対応年数が過ぎかけているこのプールを新たに修繕をして、しかも夏場しか使わないプールでございます。特に学校施設でございますので、生徒以外使うことが難しいこのプールを、今試算では、1施設に対して、約1億余りの修繕費がかかると言われておりますので、11校整備するとなったら12,3億かかるのかなと思います。中学校も今使えない状況でございますので、そこに果たしてお金を投資する、費用を投資する必要があるのかというふうなことを考えました。

それだったらですね、今2校プラス1校がインストラクターになってますけれども、今2校で外部に生徒を送って、非常に環境の良い中で、また専門のインストラクターがいる中で授業をしていただいた方が、より経済的にはどうかというふうなところもありますけれども、特色ある本市の教育としてですね打ち出していけるのではないかなと思っております。

そういうことで1ヶ所に屋内プールを作ろうかというふうなことをいろいろ市内でも協議をしながら、じゃあ場所はどこにするんだというふうなことなんですけれども、やはり小松島市っていうのは港町でございますので、この本港地区がやはり栄えていけばですね、この二条通りまた日赤がありますので、このエリアですね、健康増進エリア、また、人が集えるエリアにしていきたいなとい

うふうな思いもありますし、今、工事中ではございますけれども SL 記念広場に大規模なインクルーシブ遊具を整備しつつあります。もうほとんどが出来上がっておりまして、今月末には出来上がる予定で、2月3日には、大々的にお披露目式典を開催したいと思っておりますので、教育委員の皆様におかれましてはですね、ぜひとも、お越しいただければと思います。

そのように、この本港地区を元気にすることによって、旧市街地、また小松島市をどんどん元気になっていくのではないかな、また人が寄れるスペースを作っていきたいこの本港地区にですね、プールを作るだけでは、なかなか人を呼ぶのにまだ弱いなということで考えた結果、じゃあ kocolo も改修していこうよ、で、図書館もちょっとまた手を入れていこうよ、サウンドハウスホールもありますので、この辺一帯を一つの面として捉えてですね、小松島市の活性化に取り組んでいこうということで、今回本港地区活性化プロジェクトっていうのを立ち上げまして、いろんな計画を考えているところがございますので、この点について、今の現状の取り組みを、担当課から説明をさせたいと思っておりますのでお聞きいただきたいと思っております。

#### 内山商工観光課長

商工観光課でございます。現在取り組んでおります、本港地区港まちづくり基本構想、こちらについて説明をさせていただきます。

申し訳ございませんがお手元にお配りしております左に本港地区港まちづくり基本構想の概要版と書かれた資料になります。左上のほうに本港地区の課題となっておりますが、本市におきましては、人口減少への対応が喫緊の課題となっております。交流人口の減少を抑え、増加に繋げることが最重要であると考えております。この起爆剤とするエリアをどこにするかということで、かつて活気にあふれ、港町小松島を象徴するエリアであった本港地区、このエリアを新しい小松島の発信元といたしまして、子育て世代をはじめ、あらゆる世代が集い交流する場、また新たなにぎわいある空間の創出を目指し、そこから中心市街地の活性化、ひいては市全体の活性に繋げることとしております。

整備内容の検討にあたりましては、市民の皆様や施設利用者といった方にお集まりいただいて、ワークショップまたパブリックコメントなどで意見をいただきました。その他まちづくりでありますとか、子育てといった専門的見識を有する各委員さんから成る有識者会議や、市議会などからもご意見をいただいております。

その検討結果でございますが、その資料の裏面の方をお願いいたします。ちょうど真ん中あたりにゾーニングイメージということで記載がございます。先ほど市長からも説明がありましたように、図書館や kocolo など、港のあたり、こういったものをいろいろこう活性化に向けた計画を位置づけておりますが、本年度まず取り組むこととして、マップの右下の方に F と書かれた青色のゾーンがあったと思います。こちらのゾーンにつきましては現在みなと交流センター kocolo がございまして、こちらを天候に左右されず、子どもたちが安全に楽しく学んで遊べるとともに保護者同士が交流できるようなそんな空間を有する屋内子ども遊戯施設として整備することとしております。それからこの E と書かれたピンク色で網掛けをしているゾーンでございます。こちらにつきましては、子どもたちから高齢者までいつでも誰もが運動や学びを通して交流できるように、こちらはしおかぜ公園の道を挟んで北側に、現在駐車場でございますが、こちらに屋内プールや多目的に利用できる居

室を有する複合施設を整備することとしております。

なお整備にあたりましては資料の表面に戻っていただきまして、左下の方に今後の整備方針をうたっておりまして、このまる４番ですね、整備にあたっては、民間事業者の資金やノウハウなど民間活力の活用を検討することといたしております。

以上簡単ではございますが本港地区みなとまちづくり基本構想の説明とさせていただきます。

中山市長

はいありがとうございます。

ただいま商工観光課から、本港地区みなとまちづくり基本構想についての概略を説明させていただきました。

なんでこんな構想を立てたかというのですね、皆さんご承知の通り、もう４０年前が小松島市の人口のピークでございました。４０年前は人口１９８５年ですけども、４万４０００人に届くところまできていたわけです。まだまだ人口っていうのはこれから右肩上がりに増えていくんだろうなと思っておりましたが、その後ですね、国鉄また、フェリーが撤退をする架橋時代になってですね、なかなかフェリーの利用客も少なくなったということで、それから本市の凋落が始まったのではないかなと思っております。

今１２月３１日現在の人口でございますけれども、３万５３８２人というふうなことになっております。もうこれからますます人口減少が進むであろうと言われておりますけれども、なかなか人口減少に歯止めをかける特效薬がないんですけども、やはり人が集う小松島市にしていかなければいけない、持続可能な１０年後も２０年後もわくわくするような、いろんなイベントをして、また施設も建設することによって、小松島市に人を呼び込んでいきたいなというふうな思いがあります。財政厳しい中で、そんなに箱物を建てて大丈夫かっていうふうに言われますけれども、先ほど申しましたように、じゃあ各校の学校プールがいつ壊れるかもしれない、そこに対して投資をしていくのか、１０数億かけて投資するのか、しかも生徒しか使えないわけでございます。それよりも、やはり新しく１ヶ所に集約して、生徒のみならず高齢者の方、また多くの市民の人たちも活用していただけるような施設を作っていけば、この本港地区ににぎわいが取り戻せるのではないかなという思いがあります。そして先ほど説明したようにですね、kocoloの整備をすることによって、また図書館の整備、またたぬき広場も順次整備をしていく予定でございます。このように、未来を見据えて、この小松島市が持続可能なまちにするためにですね、何とかここで３万５０００人の人口を確保、死守しなければいけないという思いがあります。

今、私、昨日本港地区についての説明を受けた上でございますけれども、聞く度にですね、こんな未来、小松島市がですね、こんな未来があるんだという感じで、非常にわくわく感があります。皆さんも直接詳しくもっと話を聞いたら、これいいなって思っていただけだと思いますので、そういうことも踏まえてですね、プールの建設をして、そこに生徒たちを全ての学校を、このプールに送迎することで、いろいろ足の確保とか課題はございますけれども、やはり小松島市ってすごいな、小松島市の教育ってすごいなって思っていただけのような教育をしていきたいと思っております。それによって例えば小学校に上がる時、中学校に上がる時に、小松島市から出ていった人たちを、もう一度小松島市の学校に通わせたいって思っていただけのような施設を整備していきたい。

そこが学校再編の始まりだったと思います。

それと同じようにですね、特色ある教育をするためにプールで小松島市の子どもたちみんな上手に泳げるんだよ、ひょっとしたら源純夏みたいな選手がオリンピック選手が出るかもしれない。

そういうふうな思いを込めてですね、ぜひこのプールに全ての生徒を寄せて授業を受けていただきたいと思っております。

いろいろメリットデメリットがあるかとは思いますが、その辺についてちょっと教育委員会学校課の意見を聞きたいと思っております。

#### 沖学校課長

それでは複合施設建設のメリットデメリットについてですが、学校教育としての屋内プールを活用する際の考えられるメリットとしまして、まず一つ目に専用スタッフによる習熟度別少人数の指導で児童の泳力・向上に繋がるのではないかと。二つ目に、水泳が専門でない教員も多く、教職員の負担軽減になると、それから三つ目に一緒に指導することで教職員の指導力向上にも繋がる。四つ目に、引率の教職員が巡視等に対応することで児童の安全確保が向上する。五つ目に、屋内プールのため、天候に左右されず、年間使用できますので、計画的な水泳授業の実施ができる。それから六つ目になりますが、移動時間は市内ということで短縮できます。それから、七つ目に施設を開放していただけるとなると、夏休みの期間中の開放活動時の教員保護者の負担がなくなる。それから、八つ目ですが、教員によるプール施設の維持管理の負担が軽減される等が挙げられます。

それでデメリットとしましては、まず一つ目に、本来夏のシーズンにしていた学習のため、改めて年間を通しての水泳計画実施に対応したカリキュラムの作成が必要となります。それから二つ目に、年間の使用ができますが、市内の小・中学校が使用するとなると、水泳授業の回数が減少するため、市営プールを利用することも必要であると考えられます。ただ、三つ目に、夏休み期間中の開放活動など、教員、保護者の負担は減ることにはなるんですが、学校独自の保護者と連携した取り組みがなくなってしまうということは、ちょっと少し残念には思われます。

そういうことがメリットデメリットとして挙げられます。

#### 中山市長

はい、ありがとうございます。メリットデメリットについていろいろ説明をいただきました。

小松島市の教育としては、やはり特色をしっかりと打ち出して、子どもに対する教育も本当に教育するのは非常に大事だと思っております。教育にもっともっとお金を投資する必要があると思っておりますので、そういう意味でいろんなデメリットを考えないとですね、それをメリットにしていかなければいけないと思っております。

やはり今、本市は50歳ってのをやっておるわけでございますけれども、やはりチャレンジをしなければいけない。チャレンジするためにはですね、チェンジをしなければいけないんです。変わっていかないとチャレンジできないと私は思っておりますので、それが今、非常に大きなチャンスの時期を迎えているのではないかなと思っております。今、変わってチャレンジをしなければ、なかなかその持続性を担保できていないのではないかなという思いがありますので、ぜひともですね、これ後藤田知事がよく言う話です、「前例踏襲ブラック校則」なんていうふう

なことはよく言いますけどですね。まさにですね、今、時代に即応した教育をしていくべきだと思っております。もう前例やしがらみにとられることなくですね、これは我々職員にもいつも言っていることですが、時代に取り残されては、この小松島市で教育を受けようという人たちも少なくなっていくのではないかなと思っておりますんで、ぜひですね、小松島市から東大生がたくさん出るような教育をしていただきたい。そのためにはですね、健康になってもらわないといけないと思うんですよ。体力をつけていかなければ駄目だと思います。しっかりとスポーツを通じてですね、教育をしてもらって、まず水泳というのはですね、本当に体力を養うのにもってこい、うってつけだと思っておりますので、ぜひとも私も今自分があるのは南小松島小学校で走って歩いてという授業があったわけですよ。それで一生懸命、休み時間になったら競ってですね、校庭を走っております。それが今の基礎になっているのではないかなと思っておりますんで、そういうふうな力強く生きられる力を子どもたちに養ってもらいたい、授業をしていただきたい、そういうふうな観点から授業をしていただきたいと思っております。まあその辺のところも含めてですね、委員の皆様の積極的なご意見をお聞きしたいと思っております。そのプールに関して、教育に関しててもいいので、皆様のご意見を聞きたいと思っておりますが、眞井委員から、お願いしたいと思っております。

#### 眞井委員

今この計画書を見せていただいて、これが本当に全部実現できたらすごい素晴らしいことだなと思えました。あとプールについても、やっぱり僕らの時代ってまだできて新しいときだったんで、夏プールで授業をするっていうのも当たり前前みたいな感じになってたんですけど、今はやっぱり学校によっては、プールが故障してできないこともあるって聞いて、やっぱりこういう施設ができるということはとても素晴らしいことだと思うんですよ。あとは子どもの人数もこれからどんどん減っていくって言ったらやっぱりデメリットみたいには聞こえるんですけど、人数が少ないからこそできる授業っていうのは絶対あると思うんで、そのために絶対このプールを作っていただきたいなと思っております。

あとプールだけじゃなくて、プールの中に併設して市民の人も利用できるようなフィットネスがあったりとか、そういうのもいろいろあると思うんで、これはぜひやっていただきたいと思っております。以上です。

#### 中山市長

ありがとうございます。

#### 福良委員

私もこの屋内プール大賛成でございます。一点が、自分が現職のときに、やっぱりこうプールを開く前に掃除をするわけなんですけれども、結局それも職員で、それと子どもたち、特に高学年も使ってそんなこと言ったらあれなんですけど、本当に授業の時間をつぶして、掃除をして、もう近隣の人たち近所のプールの人にもいろいろと排水とかそういうのは気も使いながら、もう夏の期間中に管理をしていく、もう本当に主に体育主任、管理職も一緒にするんですけども、それが本当に大変だった思いがあって、故障をしてしまったり、途中で使えなくなったらその子どもたちががっ



かりする顔が、本当にこう今も心にやきついとんですけれども、そういうふうなことをしないように、ぜひ一括で維持管理をする屋内プールでできたらいいなというふうに思います。

それから先ほど沖課長さんもおっしゃってましたけども、いろいろメリットの部分の中で、計画的な水泳授業の実施というふうなことを書いていただいとんですけども、もうずいぶんと夏の期間というんですかね、もうそれこそ屋内だったらもう水泳指導も6月梅雨時の雨に左右されず、始められて、それこそ本当に10月ぐらいまでその長い期間を市内の小学校のカリキュラムをこなすだけの計画というのには十分にできるんでないのかなというふうに、もうゆとりを持って。その夏の期間に体育の授業というふうな、プール以外なかなかこう屋外、屋内でもう暑い時間子どもたちはもうプールが一番運動する機会としたら、体育の授業としたらもう一番良い教科、教科でなくて種目になっているので、これも本当に継続的にしていって十分こなせるんじゃないかなというふうに思います。防災というふうなことから考えると、今学校の使ってるのは防火用水の状態で作っているんで、屋内だったら、それこそもし地震があつて、飲み水の確保というふうな点からしてこの頃すごくいい装置が出て、徳島県の方が開発したんですか？循環して飲み水とか、お風呂とか、共有シャワーとかそういうのに使えるようになるのとか、海水を真水にする装置とか、そういうふうなものも、できるのであれば、活用しながらいざというときに対応できるような屋内プールもできるようなそういうふうなものも夢のある計画かなというふうな気がします。本当にこういうふうな総合教育会議でも市長さんが主になって、もう市長さんが教育に目を向けてくれるのが本当に私なんかはもうありがたく思っておりますので、ぜひこの屋内プールの実現ができたらいいなと思います。よろしくをお願いします。

中山市長

ありがとうございます。

福田委員

まず教育現場の経験者の1人として、まず学校編成につきまして、もう既にもう着々と計画が進んでおるところなんですけれども、学校現場におつたときにですね、古い校舎でもう闇雲に教育活動に取り組んでたのを思い出すんですけども、これは一斉に11校が校舎が古くなってきて学校編成という形でそれがクリアされていく。そんな中で、プールにつきましてもですね、もう既に学校ではプールの使用ができない状態が起こってきている。で、もう既に民間事業者ですかね、にもご指導いただいたりしながら、活動が進んできている。そうしている中で、子どもたちにも将来いろんな分野で幅広くその展望が持てるというんでしょうか、各競技に興味を持つ人、マラソンに興味を持つ人、水泳に興味を持つ人、学業に向かって頑張っている子どもたち、いろんな分野で子どもたちに頑張っていく姿に安心して小松島市民が安心できるような教育施設教育環境、それに今進んでいるなというのを、これを見たときに感じました。

本港地区みなとまちづくり基本構想というのをを見せていただいたんですけども、その中にもプールの屋内プールを含めて今計画されてるというのを見てですね、非常に嬉しく感じました。

プールの現状も私も現場におつたのでよくわかってるつもりなんですけれども、その指導者の部分、外部人材ということもあつたでしょうけれども、そんな中で、それを子どもたちに将来を展望を明

るくしていくその一環としてこれを取り組んでいただくそれを考えたときに、やはり市長さんもおっしゃられておりましたけれども、やはり限られた財政の中で、プールなんかについては限られた時期の中でもう7月8月に絞った中でそれが実現できていく。財政難の中、またプールっていうことになってくると安全面も優先的に考えなきゃいけない、そういうことを踏まえて考えたときに、最高の本港地区のまちづくりっていう構想がその中に組み込まれている、子どもたちの将来が何か保障されているような、そんな実感を今日持ったような気がしています。

改めて市長さんに、この限られた財政の中で教育面への予算の確保ですね、もっともっと更に一段とですね、ご尽力をいただいて、小松島市の子どもたちのためにご尽力をいただけることを、また改めて、しつこいようですけれども、ご期待申し上げて、このプールがまた一刻も早く実現できますようにご希望を申し上げて私の感想とさせていただきますので、またよろしく願いいたします。

中山市長

ありがとうございます。

渡部委員

子ども達が集まって、低学年の子に話をしているときに、5年生6年生になったら嫌なことがあるよ、プールの掃除せなあかんのよとか、よく言っていました。

だから、子どもとしては教育といえればそれも教育なんでしょうけど、やっぱりすごく嫌なことなんだなと、泳ぐだけだったらいいんでしょうけど、それは5・6年になったらせないかんとか、棒ずり持ってこないして教えてましたのがすごく印象的だったことがあります。学校訪問の新開小学校に行った時にも校長先生のほうからとにかく水を入れてても知らん間に漏ってしまって本当に苦労さるどこの小学校もそうですけど、だから本当に各校で新体制の学区になっても、プールは大事だと思うので今度のプールの話があったときに、これはもう本当にいいなと、それぞれが屋内のプールが実現したらいいなってことをもうすぐに思いました。

それと、この港、kocoloとか全部なんていうんですか、子どもたちもそうですけど、私達の年代から言うと集える場所、だから希望を言うと、kocoloを改修されるんだったら、ちょっとおしゃれなカフェみたいなんをしてもらえたらkocoloで会おうよってなかんじで何人もが港を見ながらね、綺麗な景色を見ながら、憩えるような場所をできたらいいなって、自分はね。それとこう学校終わりは、本当に新しい学校っていうのは子どもたちというか保護者も、ちょっと待ちわびてるような状態で、やっぱりちょっとこういう計画があるとわくわく感がありますよね。だからそういう意味でも、この市長さんがされてるこの事業っていうのは、大変有意義っていうか、市民にとっても、人口減少の小松島のみならず、いろんな方々とか見ても、全国的にもうとにかく消滅するような村とか街もあるということで、小松島市はまだまだ力があると思いますので、こういうことが歯止めになればいいなってところは本当に私も切に思っております。

そうですね、指導者とかもいただいてちゃんとした泳ぎとかを指導してもらえたら言うことないなと思うのと、ちっちゃい子が子どもの泳ぎをちょっとプールで教えときたいというのはちょっと伺ったらやっぱり何かのときに溺れないようにだけはしておきたいと、もうそれはもう皆さん思っているので、私はそれ以上に皆さん対してそれを基盤にでてくれば素晴らしいことだと思いますので、

もうこのね、港の構想は大変良いと思います。お願いいたします。

それから、SL 記念広場の汽車にね、どうしても乗りたい子どもたちが行って開けようと思っても、なんか残念がるらしいんです。でも、さっき伺うとすごく老朽化してて、中はもうだめだということなんで、それはもうそこまで行って開けようとするらしいんですけど、だから、そういうところにかわいらしいこの汽車はおじいちゃんおばあちゃんになってるってかんじの、なんかそういうふうな子どもにわかるような説明でこんなことになったんですよっていうことをしてもらえたらそういうのもいいかなとかってちょっと思いました。よろしくお願いいたします。

中山市長

ありがとうございます。

小野寺教育長

小松島はやっぱり海とは切っても切り離せない、共生をしていく必要がある、それで実はこの水泳っていうものが学校教育に入ってきたのは、間違っていないと思うんだけど、昭和22年のあの紫雲丸の修学旅行のフェリーで沈没をしてたくさんの子供が亡くなった。やっぱり水泳っていうものは、子どもの一生の命を救うためのアイテムでっていうふうな意味合いで僕は捉えています。だから市長にもお話をしたことなんですけれども、小松島市の子供たちは全員泳げる教育を行いますよと、小松島の学校へ来たら全員泳げるよっていうふうな、そういうふうな教育ができたらっていうふうな思いを持っています。

それで、先ほど学校課長の話にもありましたけれども、学校の先生方のアンケートの中に、63%が水泳の授業に不安があるっていう回答があるんですね。実はあの小学校の先生って全部の教科を教えますから、水泳に特化して教えてるわけではない。そうなってくると、水泳っていうのは知識的な部分でなしに対極していく部分になるので、やはり専門的な方にお教えをいただく、滑り出しの部門をその方をお願いをするっていうことは僕はすごく大事だと思っています。

だから、南小松島小学校で現在OKに行かしていただいている。先ほど市長の話もありましたけど、本当に低学年の子が水に親しみやすくなるっていうのがすごく滑り出しがうまくいっている。これまですごく効果的な部分だったんですね。だからそうなってくると、やはり今回のプールの構想ですけれども、年間を通してプールが利用できて、そして専門家の方に低学年からステップアップで教えていただくと、これは非常に効果的ではないのかなと思っています。

子どもたちにとったら、共通のアイテムにもなるんですね。小松島の子はこのプールでみんな勉強したね、水泳の勉強したねっていうこれが中学校に行った段階でみんな一緒に行ったねって。それが最終的には市民の方がこのプールとかこのエリアにやって来ることをみんなが共通項として持たないと意味がない。そこに繋がりが生まれるっていうふうな、サイクルで教育が進んでいって最終的には市民の方々の心の中に残るようなものになればなというふうに思います。だからその一つがプールと僕は思っています。

ただ問題なのは、やっぱりアクセスなんですよね。授業っていうのは45分対応となっております。

10分間休憩する業間入れたら15分。あとその部分で子どもたちがバスか何かでこういう移動してきて、そして授業を受けて帰っていく。こういうふうなスタイルがきちんと定着できるかどうか

ってというのは、教育委員会としたら今後考えていけない部分かなど。だから長期休業日にプールの授業を集中して入れるもあるだろうし、ないしは2時間続きの授業もあるだろうし、ないしは昼休みをやる授業もあってもいいし、もっと言うたら、趣味等多様な目的に対応可能な空間で書いてある。実はプールに振り分けて言うと、頭が濡れたらそのまま帰したら風邪をひくっていう考え方がある。だから、プールに入って1時間プールしたらもう1時間はその施設のなかのどこかで、学習をさせていただくと、そういうふうな形をとれば、教育課程上の時間的な部分がクリアできるのではないのかなというふうに思っています。ただそこにはバスがどうしても必要になってくるわけであって、プールと並行して、輸送についてもまたお力添えをいただければと考えております。以上です。

中山市長

はい。皆さんから非常に有意義なご意見等、またご賛同もいただいたと。で、やはり大事なのはですね何度も言いますが、お金は関係ないですよ。お金はやっぱりね、子どもたちのためにかけるべきだと思っております。それがひいてはですね、未来の小松島を作っていくと思っておるわけでございます。

何度も言いますが非常に財政厳しいです。果たして小松島市の基金は何万なのかなって。自由に使えるお金ですね。

ちょっと調べたらですね、あと10億しかないですよ10億円。で、減債基金というものもあるんですけど、合わせて17億円ぐらいあるんですけども自由に使えるのは10億円あまりしかないんです。

この10億円というのは、県内24市町村の中で23位。で、その10億円をいかに使っていくか、もちろん一般財源を全部入れるわけにいかないの、我々としては国庫、国からの有利な補助金というのを一生懸命、企画また財政部門が探しております。で、やはり教育委員会もそうなんですけども、いろんなアンテナを張っていただいて、有利な補助金を活用する。私12月にですね、多分小松島市で初めてだと思っておりますけれども、文科省に予算の要望に行きました。学校再編にしても、なかなか議会にも言われておりますけれども、100億ぐらいかかるんですね。でもそれはやっていかなければいけない。子どもたちのためにですね。やはり今福田委員がおっしゃったように、もう見てください本校以外ほぼですね。本校以外の校舎はどうでしょうか。やはりよく言われるのが、あんな校舎でって言われるんですよ、あんなトイレでって言われるんですね。それではいかんですよ。もう今年、話がいろいろと飛びますけど、出生数、子ども何人生まれたかご存知でしょうか。170人なんですよ。170人しか生まれてない。先日成人式がありました。338人新成人がいらっしゃったわけです。でも20年後は18年後になるかわかりませんが、170人しかいないですね。まだまだこれは、今、しっかりと手当していかないと減る可能性が大でございます。そこに対して我々ができることを一生懸命今模索しているわけではございますけれども、ここは教育委員の皆さんもですね、しっかりと子どもたちに何ができるかっていうふうなことをいろんなご提案をいただきたいと思いますと思うんですが、いかがですか。

### 眞井委員

子どもの出生数を上げるためには、やっぱり小松島市に住んでもらえるようなまちづくりをまずしていかなければいけないと思うんです。見せてもらった計画でも、例えばこう今、いいところ悪いところもあるけど、SNS 映えする夜景の綺麗なところとかそういうところに若い人とか大人の人っていうのがやっぱり集まってくると思うんです。やっぱり人が集まってれば、やっぱりここにビジネスチャンスが生まれるわけで、子どもの出生数を増やすっていうのも大事なんですけど、これを増やすために、やっぱり住んでもらわなくても、とりあえず人を外から遊びに来てもらえるようなまちづくりをやっぱりしていった方が、後々のことを考えると繋がっていくと思います。

### 福良委員

やっぱり小松島でないとできないことっていうか、さっき教育長さんもおっしゃられたんですけど、小松島の子はこういうふうなプログラムでちゃんと泳げる、もうみんなが泳げるような子にしてくれる、育ててくれるっていうふうなことなんかは非常に大きいんじゃないかな。前テレビで見たんですけど、しおかぜ公園にスケボーに来ている子がいて、その子は市外から来ているんですよ。だからそういうふうな環境が他のところにはなくて小松島だからできるっていうふうな、だから来てるっていうふうなことを言っていたんで、プールのことも含めて、本当に小松島だったらこういうふうな育ててくれるというふうな特色のある部分っていうのを打ち出して、眞井委員も言っていましたけれども、SNS とかで PR して広報していくっていうふうなのは、大きな一つの人を呼び込む手立てなんかなっていうふうに思います。

### 福田委員

私自身が何ができるかって今考えてました。一つは財政的な面、よろしく願いしますという願いが一つあります。それからやっぱり願うことは、先ほども眞井委員もおっしゃってましたけど、やはり小松島が魅力あるまちづくりっていうんでしょうか？それができることが一番。それは、言葉を変えるとやっぱり私も娘がおりますが、ここへ行ったらこんな補助金があっていいねとか、こんな遊び場があって子どもたちを遊ばせるのにいいな、ここへ行くと安心できるな、綺麗な学校があるな遊園地があるな、そんなところに集まっていくんですね。安心できる子どもたちが将来、やっぱり展望が開けるっていうか、可能性がそちらに期待できる、そんなまちづくり。そういう意味では、財政にお願いするばかりじゃなくて、やっぱり具体的なアイデアを、やっぱり自分が意見を持って意見も出していくこんなふうなことをしていただくと助かりますっていう意見を出していく。それがもう一つ自分に、これからもっともっと考えて具体的に出していかなければいけないのかなど。そうすることでやっぱり小松島が、未来に拓けていけるそういうまち作りになっていく。で、人が集まってくる。で、少子化がストップかかってくる。繁栄していくっていうふうなことになっていくのかなって思いますので、具体的なところをやっぱり自分自身も自分のこととして考えていきたいなと思いました。

以上です。

中山市長

ありがとうございます。

渡部委員

やっぱりあの学校が新しくなるというのは、子どもたちの教育のことを考えたときに、とどまる要素にはすごくなると思いますし、他のこう近隣であれば新しい学校行きたいなっていうのは、理由になると思うんですけど、まずはどこか大きな企業が来てくれて、そこで働く、私はあの小松島は本当に、コンパクトな中に日赤などの病院もいっぱいあって、山とか辺鄙なところに友達がけっこういるんですけど、もう1時間もかけてお医者さん行かないといけないとか、そういうことを思ったら本当に小松島はお買い物に行ってもどこへ行っても、ちょっと車を走らしたらもうどこでも行けるし、だから、コンパクトな中に生活が本当に充実してやっていけるっていうところって、そんなないし、阿南行ったり徳島行っても近いので、居住してもらえるっていうところ。住む場所としてはすごくいいと思うので、こういうことをすることで、ちょっとやっぱりここいいなと思ってくれる人っていうのがあってちょっとずつ上向いていったらいいなと思っております。

お願いいたします。

小野寺教育長

一つの課題としては学校再編。まずは自らの発信ではないのかなと。お世辞にも校舎は県内でもいい状況ではございません。

だから早く学校再編で、一つ目の校舎を建てて、その中で先程も言いましたけど、やっぱり共通のアイテムとか共有性・仲間意識とか、小松島として共通する教育を展開していく必要がある。それがさっきも言ったプールが一つ。っていうふうな形。

それとあとそれがうちのキャッチフレーズでもある繋がりにつながる。繋がりある教育をすることによって、将来的に大人になったときに、県外に出ようがふるさと納税とか、そういうふうに繋がる。ただ先ほど渡部委員さん言いましたけれども、私も同窓会行っていつも聞く言葉は、先生戻りたいけど戻れないんですっていう。本当は戻りたい気持ちは多々ある。小松島に愛着もある。小松島で生活したい。でも、なかなか雇用の場が見つけれられない。見つからない。そのような部分は、また市長さんにも多分お願いをして広げていっていただくという形で、まずは委員会で学校再編、新しい学校を自らの発信とする、これが一番の方法ではないかなと考えております。

以上でございます。

中山市長

ありがとうございます。時間もおしてしまってるんですけども、もう少しお時間をいただきたいと思うんですけども、雇用の場所、企業はそれはないです。大きな企業はですね。数えるぐらいしかないんですけども、今商工観光課また企画政策課がですね、一生懸命小松島働き方支援センターがkocoloにあります、そういうふうなところもあったり、リスキリングをしっかりと教えこもうということで、今まさにやっているとでございます。そうした結果ですね、うるるさんとかエスプールさん、テレワーク事業になりますけれども、ついこないだまでおがわさんのあとにFBマネジ

メントさんっていう企業に来ていただいております。

これによって100人から150人ぐらいの雇用創出ができる。人を探しているというところなんです。それで、我々も商工観光課が中心になって、合同就職セミナーをやっております。マッチングをですね。昔から小松島市は広報が下手なので、こういうことをやるんだよっていうことがまだ周知ができていないところがあります。小松島市の企業さんも、これをしたくてもまだまだ雇用の人が確保できない企業さんもたくさんあります。そこはしっかりと、担当課含めてですね、小松島市の雇用、こういう雇用がありますっていうことをしっかりとまた広報していきたいなと思っておりますので、また委員の皆様方におかれまして、いや小松島市はこういう働く場所があるみたいよっていうのを、決して大企業だけじゃないんですね。

また、どこでもサテライトオフィスやテレワークですね。まだまだいろんな可能性があると思います。それこそ、子どもたちにはですね、起業自らね、生業を起こしてもらってというふうなこともありますので、そういう可能性をですね、しっかりと皆さんに、教育委員会も含めてですね、植え付けていただきたいと思います。いろんな選択肢、縛るのではなくて、選択肢を広げるような教育をしていただきたいと思います。そのためには何度も言いますがやはり健康な体を作ることが大事だと思います。

本市は映えスポットがたくさんあると思います。例えばデッキから見たひのみねとか、港とか赤石港で、小松島しかないわけですよ。良好な港は。もう本当に美しい景色も、田園風景もそうです小松島しかないです。これはしっかりとですね、子どもたちに今後も1次産業に対する教育もしっかりとしていただきたいと思います。この小松島市をもっともっと知っていただけるような教育を、どんどんと外に出るような授業カリキュラム。教育長、それはお願いしたいと思うんですけども、やはり子どもたちが住んでいるこの小松島市に何があるのかなっていうのをまだまだ知らないところがあると思うんです。そこを知ってもらえるような努力を我々もしていきたい。競輪場は徳島県で小松島市しかないんです。そこに今度スポーツライミング施設を作ろうとしております。ボルダリングを作ります。ボルダリングっていうのはバランス感覚、柔軟性が大事でございます。そこを、これもプールの授業と一緒にですね、各学校の生徒を競輪場に行ってもらってボルダリングを経験してもらおう。授業にとり入れてもらうということですね、そこでバランス感覚とか柔軟性、また体力も培うことができると思いますんで、そういうふうな教育をしっかりとですね、ここは教育委員会にもお願いしたいと思っております。

もっともっとお話を皆さんといろいろなお話をさせていただきたいんですが、また次の機会にしていきたいと思っております。最後になりますけれども、この度、本港地区に整備する屋内プールにおいて、学校水泳授業を実施する方針とし、これに沿って整備を進めていくことにご同意いただいでよろしいでしょうか？

教育委員

はい。

中山市長

はい、どうもありがとうございます。

それではもう時間もおしておりますので、事務局のほうにお返ししたいと思います。

築原秘書広報課長

本日はどうもありがとうございました。本日の会議につきましては、会議録をこの後事務局の方で撮影をいたしまして、ホームページで公表させていただきたいと思っておりますので、ご了承くださいませようよろしくお願いいたします。それでは以上をもちまして、令和5年度第1回小松島市総合教育会議を閉会いたします。

本日はどうもありがとうございました。